

住宅と住宅設備の グッドデザイン

グッドデザイン賞の目的と視点…34

グッドデザイン賞2017年度受賞 住宅設備・家庭用照明器具セレクション…43



GOOD
DESIGN

グッドデザイン賞の目的と視点

公益財団法人日本デザイン振興会

事業部 課長 秋元 淳

グッドデザイン賞は、1957年に通商産業省（現 経済産業省）により「グッドデザイン商品選定制度（Gマーク制度）」として開始された事業を継承する、日本を代表するデザインの評価と推奨の活動である。

設立の当初は、デザインを通じて日本製品の品質やオリジナリティを高めること、さらに国際競争力の向上による貿易の促進など、製造業を中心とした国内産業の振興を主な目的としていた。その後、日本の経済・産業・社会構造の変化によるさまざまな影響を受けながらも毎年継続され、1998年には主催元を国から公益財団法人日本デザイン振興会（注：当時は財団法人日本産業デザイン振興会）へ移譲、名称を「グッドデザイン賞」に変更の上、民間主催による顕彰事業として現在に至っている。

今日では、暮らしの豊かさを追求することは、もはや物理的・金銭的な欲求を満たすことではなく、複雑さを増す社会において顕在化する課題の解決を目指し、人がよりよく生きられる状況を導くことと同義と考えられている。グッドデザイン賞も一義的には産業の振興や発展を大きな目的とすることは変わらないものの、より利用者（ユーザー）側の視点に立って、それぞれのデザインの価値を読み解き、社会へ広めていくことが、結果として人々の豊かな暮らしと産業の健全な発展を支えるという考え方のもとで運用されている。

制度開始以来、これまでの60年間で45,000点以上のグッドデザイン賞が選出されており、現在も一年に3,000点を超える応募を数えるなど、実績と知名度において世界的なデザイン賞として位置付けられている。

1 グッドデザイン賞の特徴

デザインを顕彰する制度としてのデザイン賞の多くが、デザインの専門分野ごとに設けられ、関連する業界内におけるコンペティション・コンクールの性格が強いのに対して、グッドデザイン賞は特定の分野を定めることなく、さまざまな領域のデザインを審査の対象としている。

こういったグッドデザイン賞の特徴の根底には、「デザインは生活環境を形作るあらゆるものごとに関わり、あらゆるものごとにデザインが生かされることが暮らしの向上につながる」という、ある種の理想主義的な姿勢がある。

具体的なグッドデザイン賞の審査対象は、工業製品、建築、ソフトウェア、アプリケーション、メディア、各種のサービスやシステム、ビジネスモデル、デザインを軸に展開される活動など、有形無形を問わない。

グッドデザイン商品選定制度の頃は、工業製品を中心とした選定という性質が強かったが、日本の産業が製造業から情報産業、サービス産業の占める割合を高めるに連れて、単に工業生産品のあり方に着目するだけでは不十分とされた。デザインを通じて産業の健全な発展をもたらし、人々の生活

の向上に資するという、事業のそもそもの目的に照らし合わせれば、産業構造の変容に伴う対象領域の拡大はごく当然の成り行きであったといえる。

よって、審査の内容も、単に審美的な観点や機能的な評価に依って立つものではない。それ以上に、デザインが必要とされる背景や、デザインに込められた問題意識や考え方、提案性、次に向けたモデルとしての規範性など、社会的な観点から、デザインの意義と可能性を読み取り、評価する方針に基づいている。

さらに、受賞したデザインを受賞後のプロモーションを通じて、広く社会に知らしめ、各分野におけるマイルストーンとして浸透させていくことを重視している。そのため、シンボルマークである「Gマーク」を活用した広報活動として、国内外における展示・プレゼンテーション・セミナーなどのほか、流通事業者との協業による受賞商品の販売や、メディアとの連携を通じた情報発信など、広範な手法でプロモーションを展開していることが特徴である。こうしたプロモーションは、主催者側による実施だけでなく、受賞者自身による自発的な取り組みとして実施されることで、社会への波及に向けた相乗効果を発揮している。

以上がグッドデザイン賞の事業全体をかたちづくる基本要素であるが、こうした事業の姿勢や方針の大元となる「理念」として、以下の5か条を掲げている。

人間 (HUMANITY)

もの・ことづくりを導く創発力

本質 (HONESTY)

現代社会に対する洞察力

創造 (INNOVATION)

未来を切り開く構想力

魅力 (ESTHETICS)

豊かな生活文化を想起させる想像力

倫理 (ETHICS)

社会・環境をかたちづくる思考力

よく、グッドデザイン賞における審査基準の存在について問う声があるが、グッドデザイン賞の審査においては明文化されたチェック項目のような審査基準は定めていない。それに代わり、上記の基本理念を踏まえて、すべてのデザインに対して共通する「審査の視点」を定め、そこに準拠しながらデザインの質を判断している。

人間的視点

- ・使いやすさ・分かりやすさ・親切さなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか
- ・安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するためのさまざまな配慮が行われているか
- ・ユーザーから共感を得るデザインであるか
- ・魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか

産業的視点

- ・新技術・新素材などを利用または創意工夫により巧みに課題を解決しているか
- ・的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか
- ・新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか

社会的視点

- ・新しい作法、ライフスタイル、コミュニケーションなど、新たな文化の創出に貢献しているか
- ・持続可能な社会の実現に対して貢献しているか
- ・新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか

時間的視点

- ・過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか
- ・中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか
- ・時代に即した改善を継続しているか

これらは、グッドデザイン賞に応募されるあらゆる分野のデザインの評価に際して等しく反映される。デザインにおける絶対的な「正解」や「基準」とは異なるが、今日の社会におけるデザインの立ち位置や、将来への可能性について探るためのガイドラインのような位置付けとして理解すべきものである。いわば「デザインの適切な見方」であり、それぞれのデザインに潜む「価値の読み解き方」であるといえよう。

特に、デザイナーや建築家はもとより、研究者、キュレーター(博物館等において、展覧会の企画から運営までを管理監督する専門職)、ジャーナリスト、企業経営者など、さまざまなバックボーンを持った審査委員が、それぞれの見地でこれらの視点に表される要素を解釈し、自らの審査に反映させることで、多様な解釈と議論が導かれる点が重要である。グッドデザイン賞が尊重する、異なったデザインの価値解釈をぶつけあう中から、最適な合意点を見出すというプロセス形成の上でも、これらの基本的な視点の存在が核となっているのである。

グッドデザイン賞における個別の領域に対する評価は、こうしたデザインに対する全体指向の理念に基づきながら、その考え方や視点を領域ごとにブレイクダウンさせて進められるのが基本である。そのうえで、各々の製品ジャンルに適した見立てを行い、適切な判断を実施するかが問われるが、この点についてはデザインの領域ごとに「ユニット」として編成される審査委員会の役割が主となる。

② グッドデザイン賞における住宅分野の評価

グッドデザイン賞は前述の通り、当初は工業製品が主体であったため、住宅設備関連製品は比較的早い段階から評価の対象とされてきている。その一方で、住宅を審査対象として本格的に扱うようになったのは1990年代からである。もともと製品デザイン・工業デザインの評価軸を中心とした事業であったこともあり、住宅についてもまずは製品として一定の規格化と量産性を伴った商品化住宅、いわゆるプレファブ住宅と称される、大手ハウスメーカーにより開発・供給される住宅が対象とされた。初期にはその年度の最高賞に該当するグッドデザイン大賞に輝いた住宅もある。

当初は、空間用途性の拡張や、新技術の導入・生産性の確保など、一定の量を伴って市場に供給さ



1995年度受賞作品／
「URBIS-3 PRIVATE」 積水ハウス



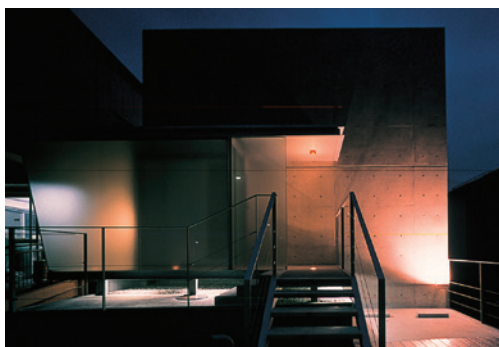
1996年度受賞作品／
「GENIUS 蔵のある家」 ミサワホーム

れることをふまえた住宅商品としてのモデル性・望ましい住居環境のあり方に対する提案性などが評価の軸とされた。施主の要望に合わせて建築家が個別に設計し提供する住宅と違い、特定の規格に基づいて成立し反復が可能なかたちで流通される住宅として、どこまで住まい手の要望に応えられるか、その拡張の可能性とともに、住まい手自身の満足度を高めるための商品性なども評価の対象とされていた。

ハウスメーカーを主体として形成された住宅市場は、各社が積極的に商品性の拡充に努めることで、多種多様な住宅の供給が続けられたが、グッドデザイン賞においては2000年代に入ると、事業の方針に大きな転換が図られる。それが、商品などの生産者側の観点ではなく、利用する側（ユーザー）の観点に立ったデザイン評価への、評価軸のスライドである。

この時期はおおよそその産業分野において、生産者・供給者がイニシアチブを取ったかたちでの活動以上に、ユーザー側の意思や実態に即した活動の実効力が高まる傾向をみせはじめ、作り手の一方的な都合や事情で企図されるものごとに対する社会の信頼感が揺らぎはじめたタイミングである。だからこそデザインも、本来それをもっとも必要としているユーザーの存在に準じた価値が提供されるべきだ、という考え方に則した変更であった。これは今に至る「人を基軸としたデザインのあり方（Human Centered Design）」という、デザインに対する基本的な考え方の先駆けとも言えるものであり、グッドデザイン賞に関わる多くの生産者やユーザーなどに、立場の違いを超えて広く支持される結果となった。

このような評価方針の根本的な転換もあり、グッドデザイン賞が住宅の審査において、それまでのハウスメーカーや工務店などによる商品化住宅だけでなく、職能建築家による個別設計の住宅を対象に加えたことも、それぞれのユーザー（施主）に向けたデザインの解を通じて、デザインの社会的可能性を探る、という趣旨において自然な展開といえた。ある種の規格化・標準化が前提の「商品」展開とは異なる、個別最適の追求の中から、全体最適へと応用が可能な要素や、新しい全体最適を求めていく上での重要な示唆となりうる部分を、建築家によるいわばケース・バイ・ケースの住宅「作品」の中から見出そうとしたのである。特に、人の住まい方・暮らし方の提案といった根源的な部分での可能性において、建築家と施主との間で先鋭化された各事例は、ハウスメーカーなどの事業主体にとっても刺激となる面は少なくないはずである。



2001年度受賞作品/
「時間の家」 谷 佳代子

それとともに重要性を増したのが、「全体環境の中における住宅」といった考え方である。それ自体でみれば個別に独立・自立した住居である戸建住宅も、立地環境の観点では景観の一部として、コミュニティ機能の一翼として位置づけられるという当然の定理がより意義を持ったのも、2000年代に入ってからである。もはや、ただ単に住まい手の要望のみの自己完結的な追求ではなく、周囲の社会状況との間でいかに折り合いをつけ、時にはそこに積極的に働きかけることができているか、新しい住宅像として具現化する。このような考え方に立てば、住宅も物質的な内実だけでなく、たとえばコミュニティを意識した設計やソフトウェアの付帯など、外部に向けて提供されるプログラム性までを含めて評価を行うようになった。



2017年度受賞作品／
「リフレ新白岡コミュニティガーデン街区」
総合地所、アール・エフ・エー



2016年度受賞作品／
「住居と園庭」
松浦荘太建築設計事務所

最新のグッドデザイン賞の住宅審査においては、たとえば「小屋」や「トレーラーハウス」といった、住居の形態としてはやや極端に映る事例に対しても高い評価が成されている。これも、人が住み、活動するためのベース機能を担うための空間のあり方の可能性を投げかけ、私たちに「住まうこと、暮らすこと」の意味や本質を問いかける、そういった対象としての意義を称揚しているものと理解できる。



2017年度受賞作品／
「無印良品の小屋」良品計画



2017年度受賞作品／
「住箱」スノーピーク

3 グッドデザイン賞における住宅設備製品分野の評価

住宅設備関連製品はグッドデザイン賞の審査対象として例年、相応の応募数と受賞数を数える分野のひとつである。椅子やテーブルといった家具として括れる製品群よりは、住宅の内外に設置されて居住のための機能と役割を司る製品が主体で、単体で最終目的を達成できるようパッケージされた製品のほか、部材など、住宅の構成要素的な製品も多い。専門家やプロシューマー（アイデアや情報を持ち、企画開発等で生産者側にもなりうる進んだ消費者）向けの製品が多いことも特徴である。

グッドデザイン賞という名称もあって、この賞に対して製品の「意匠」や「外見」のレベル評価が主体であるという認識を持つ事業者が少なくない中、一般消費者向けでない、文字通りの「住宅設備」的な製品を提供する事業者がこの賞に期待していることは何か？ そのように考えてみると、グッドデザイン賞において住設分野の評価で重きを置くポイントがみえてくる。

近年では、住宅技術と情報通信技術との融合により、住宅におけるエネルギーやセーフティ、セキュリティなどの管理体制の整備が進んでいる。いわゆるスマートハウスと称されるような、居住者の基礎的な生活環境のワンストップ・マネジメントを前提とする住宅が増えるに連れ、そのために必要な機能を担うホームマネジメント製品がグッドデザイン賞の対象としても増加するようになった。これらは従来からの、製品単体で効果を発揮する自己完結型の製品と異なる、情報インフラなどとの接続により機能するシステム性が前提の製品である。それだけに、複数の要素の間をつなぎ、統合し、所定の目的を達成するための関係性の質が問われてくる。

特に、情報というそれ自体では視覚の対象でない要素に負う部分が重要になるほど、ユーザーが目的を達成するうえでどれだけストレスの少ない使用状況が実現しているのか、たとえば操作部のインターフェースの内容、製品の触知が可能な部分の質などに評価の軸足が置かれる傾向がある。さらに情報のアップデートとそれに伴う機能の進化に対する時系列的な対応が必須であるため、もともと設置されてから長い年月にわたり耐久的に使用される傾向がある住設製品として、より高いフレキシビリティが備わることも求められるようになる。

そして、従来型の構成要素の性格が強い製品においても、近年では明らかに空間との関係性を意識したものが主流になってきており、この点では供給者側の認識が、たとえ広い室内における局所的な



2015年度受賞作品／
「コントローラー S-728」 総合警備保障

位置づけの製品であっても、全体状況を成す上で細心の留意をもって提供されるべきものとして深められてきていることをうかがわせる。

グッドデザイン賞において住設関連製品の審査は、プロダクトデザイナーや工業デザイナーと建築家が中心となることが一般的である。特に後者の存在は、常に住設製品を空間の中に位置づけ、それ単体で独立した存在でなく、全体の一要素として捉える必要性を担保している。「壁のコンセントひとつでも」空間全体における関係性を決して蔑ろにできないという、この領域のデザインを判断するうえで不可欠な姿勢の具現化である。



2017年度受賞作品／
「UCWシリーズ」 寺田電機製作所

過去のグッドデザイン賞の住設関連製品審査においては、この空間の全体性と製品の関わりを巡って、しばしば激しい議論を引き起こしたケースがあった。たとえば一般用途向けエアコンにおける室内機のあり方に関して、メーカーが快適性、省エネルギー性、メンテナンスフリー性をはじめとする高度な機能を実現するべく、より高付加価値型の製品開発を進めた結果、筐体が大型化し、空間における存在感を増すことになった。それに対して、審査の過程で、設置する空間との調和性、室内環境



2017年度受賞作品／
「角型超スリムフード付換気口」バクマ工業

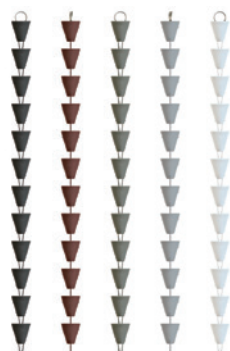
における美観維持に関する問題提起が成され、議論の結果、そのような商品開発の方向性そのものに対する厳しい評価が一律に下されたようなことも、過去にみられた。この事例などは、生産者および市場・ユーザーの意向に対する、おもにデザイナーや建築家の側からの、ある種の異議申し立てに近い表明であったが、住宅設備として、そこで生活する人に対して、真に心地いい、快適な状況をもたらすことの意味を投げかけた点で、グッドデザイン賞ならではの論点を提供したと理解されよう。

ちなみに、2017年度には中国の企業による、室外機を含めてトータルデザインを推し進めたエアコンが応募され、屋内外の区分なく、設備が置かれる状況のクオリティを高めることの意義を具現化した事例として注目された。



2017年度受賞作品／
「Smartmi Full DC Inverter Air-Conditioner」SMARTMI Limited

もうひとつ、近年の住設分野に顕著な傾向として、社会における住宅と環境との関わりを問うことが挙げられる。ここでの環境とは、大きく2つの方向性をもって位置づけることができる。まず、前述した「全体環境の中における住宅」という捉え方に基づき、住宅を介在した公共的な環境形成という観点から、住宅と街並みとの関わりなど、景観の品質向上に貢献できる製品に対する評価である。



2016年度受賞作品／
「クサリトイ『ensui』」
タニタハウジングウェア



2016年度受賞作品／
「リサイクル内装ボード」 ケイミュ



2016年度受賞作品／
「S. ボード『UCHI-MIZU』」
三協立山 三協アルミ社

これには外構関連製品や、住宅の外装部材なども含まれる。

さらには、環境への負荷を減少させる効果が期待しうる製品に対しても高い評価が成される傾向がある。リユース素材を用いた部材や、天然の気候や条件がもたらす作用を積極的に取り入れた機能性の製品など、自然環境とのバランスを重視した製品事例も増えている。

なお、すべてのグッドデザイン賞の審査では、製品の品質検査や、実効果の継続的な観測・実証などのプロセスを経ることは基本的になく、それらは事実上、応募者側による管理監督事項として扱われるため、この賞による評価が第三者による製品の品質証明や保証的な役割を意味するものではない点を最後に付言しておく。

**グッドデザイン賞 2017年度 受賞
住宅設備・家庭用照明器具セレクション**

グッドデザイン特別賞 [ものづくり]

工種	受賞対象	受賞企業
電気設備	壁用コンセント UCWシリーズ	寺田電機製作所

グッドデザイン賞

工種	受賞対象	受賞企業
建具金物	デジタルロック PiACK II (ピアック ツー)	美和ロック
電気設備	電球 アイリスオーヤマ LED人感センサー電球 LDR8L-H-6S LDR8N-H-6S LDR5L-H-6S LDR5N-H-6S	アイリスオーヤマ
電気設備	LED電球 サイフォングラnde	ビートソニック
電気設備	Akro L&L Luce&Light	L&L Luce&Light
電気設備	connected desk light Philips EyeCare connected desk lamp gen 2	Philips Lighting
電気設備	レビオ LEDタスクライト	YAMAGIWA
電気設備	デスクライト トア	アンビエンテック
電気設備	照明 ペンダントライト 大正浪漫硝子	廣田硝子
電気設備	照明器具 ジュジュ	鈴木照明
電気設備	センサーライト フリーアーム式LEDセンサーライト	ムサシ
電気設備	屋外用照明器具 美彩 (2017モデル/屋外用和風照明)	LIXIL
冷暖房・空調	エアーコンディショナー 小空間マルチカセット ココタス	ダイキン工業
冷暖房・空調	カラーエアコン KADEN Colors	長谷川電家商会
冷暖房・空調	エアーコンディショナー FTXM25SVLT	ダイキン工業
冷暖房・空調	エアーコンディショナー F22VTUSS	ダイキン工業
冷暖房・空調	エアーコンディショナー Panasonic CS-X408C2 シリーズ	パナソニック
冷暖房・空調	エアーコンディショナー Panasonic CS-J227C シリーズ	パナソニック
冷暖房・空調	エアーコンディショナー FUJITSU KGシリーズ	富士通ゼネラル
冷暖房・空調	家庭用壁掛けエアコン OP-E221MX	広東美的制冷設備
冷暖房・空調	エアーコンディショナー 霧ヶ峰 MSZ-ZWシリーズ、MSZ-ZXVシリーズ	三菱電機
冷暖房・空調	エアーコンディショナー MSZ-APシリーズ	三菱電機
冷暖房・空調	エアーコンディショナー 一方向天井カセット形 MLZ-RXシリーズ、MLZ-GXシリーズ、MLZ-HXシリーズ	三菱電機
冷暖房・空調	ベレットストーブ 時計型Plus YNE-60	ホンマ製作所
冷暖房・空調、 給湯設備	ヒートポンプ式給湯暖房機 Panasonic WH-ADCシリーズ	パナソニック
冷暖房・空調、 給湯設備	ヒートポンプ式給湯暖房機 Panasonic WH-SDCシリーズ	パナソニック
電気設備	ハイブリッド型パワーコンディショナ Panasonic パワーステーションS LJPB21/LJPB22	パナソニック
室内装飾・家具	ブラインド スマートブライバシー機能 (ループコードタイプ)	ノーマンジャパン
住宅設備、 給排水・衛生	Lineare New Collection Grohe	Grohe AG
住宅設備、 給排水・衛生	Concetto Professional Grohe	Grohe AG

**グッドデザイン賞 2017年度 受賞
住宅設備・家庭用照明器具セレクション**

工種	受賞対象	受賞企業
住宅設備 給排水・衛生	Sense and Sense Guard Grohe	Grohe AG
住宅設備	ガスビルトインコンロ リンナイ RHD312GM RHD322GM	リンナイ
住宅設備	ガスビルトインコンロ フェイスシリーズ	パロマ
住宅設備	IHクッキングヒーター Panasonic KY-T937SL	パナソニック
住宅設備	IHクッキングヒーター Panasonic KY-B917AF	パナソニック
住宅設備	IHクッキングヒーター Panasonic KY-B627SL	パナソニック
住宅設備	IHクッキングヒーター Panasonic KY-T937VL	パナソニック
住宅設備	換気扇 (レンジフード) ホーロークリンレンジフード VRAシリーズ (VRAE,VRAS-E)	タカラスタANDARD
住宅設備	レンジフード ユーフォー	トーヨーキッチンスタイル
住宅設備	レンジフード搭載機能 オイルスマッシャー	富士工業
住宅設備	キッチン エスティコ	サンワカンパニー
住宅設備	キッチン セラジーン	サンワカンパニー
住宅設備	洗面ボウル シガラキ エン	サンワカンパニー
住宅設備	洗面ボウル シガラキ イロドリ	サンワカンパニー
住宅設備	洗面台 カーラ	サンワカンパニー
住宅設備	洗面台 デリエレ	サンワカンパニー
住宅設備	洗面器 YL-A401	LIXIL
住宅設備	ユニットバス部材 Panasonic スゴビカシリーズ	パナソニック
給排水・衛生	シャワーヘッド ミストトップ・リッチシャワー	水生活製作所
給排水・衛生	シャワーヘッド Panasonic W水流シャワー GVM8000, 8001, 8002	パナソニック
給排水・衛生	サーモスタット付シャワーバス水栓 クロマーレス	LIXIL
給排水・衛生	ハンドシャワー、シャワースライドバー フルフオールシャワー	LIXIL
給排水・衛生	プッシュボタン式シャワーバス水栓 プッシュ水栓	LIXIL
給排水・衛生	Shower trim kit Livin	Livin Life
外構・造園	エクステリア商品シリーズ シャローネ	YKK AP
木工事	木製手摺 木製システム手摺 ウイズモア	ミサワホーム 朝日ウッドテック
金属製建具	公共及び、民間ビル向けアルミニウム製建具 MTG-70R	三協立山 三協アルミ社
木工事	手すり 七曲	平成建設
木工事	室内手すり AMIS	三協立山 三協アルミ社
給排水・衛生	排水トラップ マルトラップ 洗面・手洗い用ウォレス	丸一
冷暖房・空調	外壁用端末換気口 角型横吹出し換気口	バクマ工業
冷暖房・空調	外壁用端末換気口 角型超スリムフード付換気口	バクマ工業

**グッドデザイン賞 2017年度 受賞
住宅設備・家庭用照明器具セレクション**

工種	受賞対象	受賞企業
冷暖房・空調	室内給気口 樹脂製プッシュ式レジスター	バクマ工業
給湯設備	給湯リモコン RC-G001シリーズ	ノーリツ
給湯設備	ガスふろ給湯器用台所リモコン MC-E226VSシリーズ	パロマ
冷暖房・空調	空調設備 Z空調〔ゼックウチョウ〕	松家ホールディングス
電気設備	配線器具 Panasonic インド向け配線器具 新ローマシリーズ	パナソニック
防火・防犯・防災	テレビドアホン Panasonic テレビドアホン VL-SWH705KS	パナソニック
金属製建具	マンション玄関ドア ヴァリフェイス Ae	文化シヤッター
木製建具	玄関ドア コンサイニードア	ミサワホーム
外構・造園	機能ボール ファノーバ	三協立山 三協アルミ社
木製建具	高断熱玄関ドア イノベスト	YKK AP
外構・造園	マンション内設置郵便ポスト付宅配ロッカー 「ソコボス」	タカラレーベン
外構・造園	カーポート LIXIL カーポート SC	LIXIL
建具金物	蝶番 フラット蝶番	ニシムラ
建具金物	オープン棚引き戸金具 スライドライン エム	ヘティヒ・ジャパン
内装（床）	ビニル床タイル モルタライフ	田島ルーフィング
タイル	タイル スマートモザイクシート	LIXIL
内装（壁・天井）	内装用カラーガラス ラコベル®プレミアム	旭硝子
内装（壁・天井）	装飾用パネル ORII MARBLE（オリイマープル）	モメンタムファクトリー・Orii
内装（壁・天井）	せっこうボード コーナーボード	チヨダウーテ
内装（壁・天井）	住宅用熱処理木材製壁材 室内外用壁材	住友林業
外装	窯業系外装材 レジェール	ケイミュー
外装	金属製外壁材 SF-ビレクト	アイジー工業
外装	外装建材 色と線の一体感を演出する「TANITA GALVA」	タニタハウジングウェア
塗装、左官	漆塗 不燃材への漆塗技術	平成建設
木製建具	木製サッシ マドバ	日本の窓
屋根・板金	屋根葺き材 はたらく屋根 屋根材型モジュール エコテクノルーフ	タニタハウジングウェア 吉岡
屋根・板金	屋根材 アドバンス	川上板金工業所
木工事	木造住宅向け制振装置 制振装置evoltz L220	千博産業
金属製建具	ルーバーパネル ドリップルーバー	ミサワホーム ミサワホーム総合研究所
外構・造園	壁面緑化システム グリーン・ラジエーター	清水建設・フィールドフォー・デザインオフィス
冷暖房・空調	エアトウ・ウォーターヒートポンプ室外機 ecodan PUHZ-SW/SHW-AAシリーズ	三菱電機